

介護の手間はどこにある？

1

3つの評価軸の特徴

	能力	介助の方法	有 無
主な調査項目	身体的能力 (第1群を中心に10項目) 認知の能力 (第3群を中心に8項目)	生活機能 (第2群を中心に12項目) 社会生活への適応 (第5群を中心に4項目)	麻痺等・拘縮(第1群の9部位) BPSD関連 (第4群を中心に18項目)
選択肢の特徴	「できる」 「できない」	「介助されていない」 ～「全介助」 (介助の量ではなく、介助の方法)	「なし」 「ときどきある」 「ある」
項目の狙い	本人の能力	最終的に提供されている介助(提供されるべき介助)	行動の発生頻度に基づき選択(BPSD)※
特記事項	日頃の状況 選択根拠(判断に迷う場合)	介護の手間と頻度	介護の手間と頻度 (BPSD)※
留意点	実際に行ってもらった状況と日頃の状況が異なる場合	「実際に行われている介助が不適切な場合」	定義以外で手間のかかる類似の行動等がある場合(BPSD)※

※麻痺等・拘縮は能力と同じ

2

介助の方法の調査項目

1-10 (洗身) 1-11 (爪切り)

2-1 (移乗) 2-2 (移動) 2-4 (食事摂取)
 2-5 (排尿) 2-6 (排便) 2-7 (口腔衛生)
 2-8 (洗顔) 2-9 (整髪) 2-10 (上衣の着脱)
 2-11 (ズボン等の着脱)

5-1 (薬の内服) 5-2 (金銭の管理) 5-5 (買い物)
 5-6 (簡単な調理)

3

BPSD関連項目

3-8 (徘徊)、3-9 (外出して戻れない)

4-1 (被害的) 4-2 (作話) 4-3 (感情が不安定)
 4-4 (昼夜逆転) 4-5 (同じ話をする)
 4-6 (大声を出す) 4-7 (介護に抵抗)
 4-8 (落ち着きなし) 4-9 (一人で出たがる)
 4-10 (収集癖) 4-11 (物や衣服を壊す)
 4-12 (ひどい物忘れ) 4-13 (独り言・独り笑い)
 4-14 (自分勝手に行動する) 4-15 (話がまとまらない)

5-4 (集団への不適応)

4

STEP 2：介護の手間にかかる審査判定

【議論のポイント】 ～幅のある介助量について～ テキストP22

排尿の全介助（2－5）

- ・オムツを使用しており、定時に交換を行っている。
- ・トイレで排尿しているが、すべての介助を行っているため「全介助」を選択する。強い介護抵抗があり、床に尿が飛び散るため、毎回、排尿後に掃除をしている。

食事の一部介助（2－4）

- ・最初の数口は、自己摂取だが、すぐに食べなくなるため、残りはすべて介助を行っている
- ・ほとんど自分で摂取するが、器の隅に残ったものについては、介助者がスプーンですくって食べさせている。

5

STEP 2：介護の手間にかかる審査判定

【議論のポイント】 ～頻度～ テキスト P23

介護の手間に差がある「一人で出たがる」

- ・週1回ほど、一人で玄関から自宅の外に出てしまうため、介護者は毎回のように探しに出ている。
- ・ほぼ毎日、一人で玄関から自宅の外に出てしまうため、介護者は毎回のよう
に探しに出ている。

「介助されていない」を選択していても介助がある場合

- ・トイレまでの「移動」（5回程／日）など、通常は自力で介助なしで行っているが、食堂（3回／日）及び浴室（週数回）への車いすでの「移動」は、介助が行われている。より頻回な状況から「介助されていない」を選択する。

6